

2 校区の概要

(1) 地理的概要及び産業の特色

五木村は、熊本県南部にあり、東西約20km南北18km、面積約252km²を占める広大な村である。周囲を九州山地の1,000m級の山々に囲まれ、村の南北を川辺川、東西をその支流である五木小川が貫流している。村の面積の96.8%は山林であり、V字型地形のわずかな河岸段丘に集落が点在する山間村である。

村の基幹産業は農林業であるが、林業は木材価格の低迷などから厳しい経営状況にある。また、耕地面積が1%に満たないことから大半が樹園地で、椎茸や茶、栗などの生産が行われている。

歴史的には、旧校舎周辺から縄文式土器を中心に打製・磨製石器などの出土品があり3,000～4,000年前から定住していたものと考えられ、著名な頭地遺跡として学会にも紹介されている。また、川辺川ダム建設に伴う埋蔵文化財調査では、頭地代替地からも旧石器が出土しており、少なくとも1万年前には人間が生活していたことが判明している。

(2) 教育的環境

校区の人々は人情豊かで愛郷心が強く、教育にも関心があるとともに、「我らの学校」という意識が学校への協力の原動力にもなり、あらゆる場面で学校と一体となって学校教育を支えている。また、保護者の学校行事やPTA活動等への参加はよく、大変協力的である。しかし、今日的な社会変化に伴う家庭教育力の低下はこの地域でも見られる。

近年は人口の流出による過疎化・高い高齢化・少子化などの課題を抱え、将来の村のあり方を考えていく上でも人材育成が重要である。

(3) 本校の概要

本校の歴史は古く、明治8年に創立され、本年度で創立137年目を迎える。現在の校舎は、平成15年竣工で10年目を迎える。普通教室5、特別教室4、校長室・職員室・図書室・保健室・体育館・プール・ランチルーム、その他付随施設も併せて完備されている。

平成17年度末をもって三浦小学校が閉校となり、本校に統合となった。また、平成13年度から休校していた平瀬分校も閉校となった。平成20年度末には、五木西小学校が、平成22年度末には、五木北小学校が閉校となり、本校に統合となった。そのため、平成23年度から、村内唯一の小学校となり現在に至っている。

児童は、素朴で明るく人なつっこい。しかし、主体的に考えたり表現したりすることは苦手である。男女の仲はよく、相手の気持ちを考え何事にも協力して取り組むことができる。与えられたことにはまじめに取り組むことができるので、生活・学習両面において基本的な生活習慣を身に付けさせ、自主的・自発的な言動をさらに引き出したい。

平成16・17年度国立教育政策研究所委嘱へき地教育研究指定を受け、平成17年10月28日に研究発表会を開催した。また、平成19・20年に熊本県教育委員会指定「心の教育」研究推進校として、道徳教育を中心に研究し平成20年10月31日に研究発表会を開催した。

平成24年度には、五木村が、文部科学省から「栄養教諭を中核とした食育推進事業」推進地域の委託を受け、その取組を推進した。

そして、本年度からICTを活用した「未来の学校」推進事業の研究推進校として、また、平成27年度の第64回全国へき地教育研究大会熊本大会の発表校として、研究を進めているところである。



〈五木東小学校区〉